

令和2年度 第1回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

■日時：令和2年7月8日（水）9時30分～11時30分

■場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつUDCBK

■出席委員：肥塚座長、加藤副座長、及川委員、武田委員、田畑委員、田中委員、神部委員、阪本委員、秦委員、松浦委員、伊庭委員、有村委員、片岡委員、内山委員、亀石委員、北村委員、松井委員

■欠席委員：深尾委員

■傍聴者：なし

■事務局：堀田理事、本村調整員、中瀬参事、坂居専門員、辻会計年度任用職員

1. 開会

【事務局】

定刻になりましたので、これより令和2年度第1回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきたいと思えます。まず初めに草津市総合政策部、草津未来研究所の副所長の堀田から御挨拶を申し上げます。

【堀田理事】

改めまして、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。草津未来研究所副所長の堀田でございます。まず皆様にはこの度、懇話会委員を令和2年6月1日からお願いしておりますにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため開催が本日になりましたこと、大変申し訳ございませんでした。また、マスクの着用や消毒など感染予防の御協力いただきまして大変ありがとうございます。

さて、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営委員懇話会につきましては、平成28年10月に設置し、これまでアーバンデザインセンターびわこ・くさつの方針からその事業の在り方等について御意見をいただいていたところでございますが、この度、委員の任期を2年とし、多様な市民の考え方が反映できるように、委員構成を見直しさせていただいたところでございます。

さて、アーバンデザインセンターびわこ・くさつにつきましては、フェリエ南草津5階に平成28年に設置した後、平成29年8月に現在の場所に移転して、ちょうど今月末で3年が経過するところでございます。この間に南草津駅前に分譲マンションの建設やプリムタウンの開発など、南草津の様相も変わってまいりました。このような都市化の中で、産学公民の連携の拠点としてアーバンデザインセンターびわこ・くさつが果たす役割を、皆様とともに考え、都市空間のデザインへと働きかけることができれば、と考えているところでございます。

なお、当懇話会の座長と副座長につきましては、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会開催要項、第5条第2項に基づきまして市長が指名することとなっておりますことから、座長には草津未来研究所の顧問であります立命館大学の肥塚先生に、また、副座長は草津商工会議所の加藤専務理事にさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

それでは、議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきたいと思ひます。本日の次第と資料1から4、参考資料AとBです。皆様、お手元にございますでしょうか。また、本日欠席は龍谷大学の深尾先生です。よろしくお願ひいたします。開会につきまして、座長からひと言お願ひいたします。

【座長】

皆様、おはようございます。座長を務めさせていただくことになりました肥塚でございます。新型コロナウイルス感染症のことで皆様大変御苦勞をなされているかと思ひます。私が勤めております立命館大学も前期の講義がすべてWEBで行うことになっておりましたが、ようやく7月になって学生や院生が制約を受けつつも入構できるようになって少し変化が出てきているところございます。新しい生活様式等、いろいろなことが言われておりますが、これまでとは違う新しいことを全面的に考えていく時期でございます。UDCBKについては、アーバンデザインについて考えることを草津で行ってまいりましたので、これまでの延長線上だけではなく、新しい取組や考え方を取り入れてやっていかなければと考えております。

皆様の積極的な御發言をいただきながら進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひします。

2. 自己紹介

【事務局】

それでは、座長から順に自己紹介を委員の皆様よろしくお願ひいたします。

(自己紹介)

3. 報告

【座長】

それでは、1番目の令和元年度の事業実績と2番目の新型コロナウイルス感染者の拡大防止の対応等について事務局から報告していただきます。

(事務局から資料の説明)

【A 委員】

UDC 関連の事業実施の報告を見させていただくと、学とか民とか産とかイベント関係がどのような連携で行われているかよく分かったのですが、私自身の視点で言わせていただくと、この場所がまちづくり、草津のまちづくりというものの拠点としていくためには、当然、産学連携ということが重要なのですが、やはり主役は市民であって、ここを拠点として市民がどうつながって、そこからどういう事業が広がっていくのか、そのあたりをしっかりと見せていただきたいと思います。民というのが、市民が関わっているということですね。民が関わっているイベントが結構あると思います。アーバンデザインセミナーを、民に絞って見たときに、これまでの経緯として、市民との関わりが増え、市民が中心となって事業を展開したり、活用をしたりということに年々変わってきていると理解してよろしいでしょうか。

【事務局】

今までですと、オープンスペースで自由に皆様が御協議されているということが多かったように思いますが、セミナーやスクールに繰り返し御参加いただく方が、何か自分たちの活動を活かすことができないかと、御相談をいただくような形に少しずつ変わっているような感じもございます。また、UDC からの御案内については、快く受け入れていただいて、少しずつ距離が縮まっているようには感じます。ただ、その分、新規で来られた方々につながりを持っていくという仕組みを作っていかなければいけないと思いますので、以前から UDCBK を御利用いただいている方とはより深く、新しい方とは新しいつながりを作っていけるシステムというのは、まだまだ考えていけないと思っております。

【A 委員】

やはりその視点というのは大切にさせていただいて、市民とのつながりの中で、草津のまちづくりの拠点として、ここがうまく機能していけば、素晴らしい場所になると期待しておりますので、よろしく願いいたします。

【B 委員】

資料3の方でも書かれているのですが、その前に、今年度の事業展開ということで、コロナの影響でリモートとかWEB会議とかをやる傾向になっているのですが、その中で人が出会ってということが求められているが、それができない状況であると思います。そのような時にこの場所を開けるのは御苦勞があるとは思いますが、コロナの御苦勞の

現状などお聞かせいただけたらと思います。

【事務局】

草津は感染者の方も出られたということで、かなり慎重に事業を進めていくという形になりまして、早い段階から閉室ということを取り入れさせていただきました。私たちもこの建物の中で勤務をしていましたが、利用者が来られてもガラス越しにしか話せないこともありました。そのような状況で私たちもお越しいただきたいし、利用者も利用したいと思っておられます。その半面、開室しても子どもを連れて行っていいのかなとか、逆に自分たちが行くのが迷惑かなと思っておられる方がまだまだ多くいらっしゃるというのが現状かと思えます。オンラインの方が進みまして、UDCの方でもZoomでの会議をさせていただいているものの、一般市民の方とはZoomの会議というのが取り入れることができませんでした。ただ、「やさしい日本語サロン」をここで毎週開催していましたが、そちらはZoomで開催ということで、月に2週くらい回数を減らしております。Zoomを利用しながら、かつ、どうやってこの場でリアルにやっていけるか、というのを今探っているような状況です。

UDCBKの大きな事業として考えていきますと、コロナが終息するのを待っているだけでは事業は進みませんので、乗り越えていかないといけないと思っておりますので、今までのようなオープンスペースでセミナーやスクールをするだけでなく、外に出ていくことや、人と人がお出会い出来なくても、人と人がつながれるやり方、手法というのも見出していかないと、と考えています。4年経ちましたが、昨年と同様の動きにはいれないというところで、新たな試みがもしかしたら失敗してしまう事業も出てくるかもしれない。あと、大学生がなかなかまちに戻ってこないという現状がありますので、大学があるまちにとって、そのあたりに課題が出てくるのではないかと考えています。

【C委員】

オープンスペースを使うということだけではなくて、市民と市民のつながり、プラットフォームになるということが組織として大事だと思っております。資料を見させていただくと、Zoomの契約がなかなかうまくいかないということで、難しい点もあるとは思いますが、オンラインにすることによって悪いことばかりではなくて、今までなかなか参加できなかったような人が市民の集まりの場に参加できるということもあります。私も大学で多人数の学生を見ていますが、オンラインにすることによって、むしろ学生たちは授業を最前列で聞いているような感覚になるという話もあって、よく勉強しているなということもあります。また、高校の先生方を対象に説明会をすることもあります。今までだったら来られなかったような地域から参加いただいたりしました。時間的なところでも、つながる人達の拡大といったことを追及していけたらいいのかなと思えます。

UDCのZoom会議があったということですが、このような（コロナの）状況で、全

国の組織の中で積極的につなげているという事例などあれば教えてください。

【事務局】

他の UDC は任意団体、法人化されておりますので、オンラインの方も進んでおります。Zoom 会議は、参加する方は簡単にできますが開催というのは難しく、他の UDC のスタッフの皆様は臨機応変に、個々の都合のつく場から参加できますが、私たちは公務の中での参加となりますので、時間的に制約されることもあります。他の UDC は早い段階からオンラインでイベントをされているところもありますが、これからは、屋外に出ることがポイントになっていくのではないかとということが言われておりました。そちらに向けて実証していくという UDC もございました。UDC は組織形態が違いますが、非常事態宣言が出ておりましたので、その間の事業というものは止まっておりましたので、その間に準備をして、屋外の、街中での取り組みを考えておられます。

【座長】

オンラインについてですが、草津では地域再生計画で、今日来られています田中先生が、山田学区でのまちづくりワークショップを今 2 回に渡ってされていて、コロナの関係で Zoom を使って、つい先日はオンラインとリアルを組み合わせています。これはかなり新しい取り組みだなと思います。田中先生、そのあたりのお話をお願いします。

【D 委員】

今年 2 月から始まった山田学区のまちづくりですが、ちょうどコロナが始まってしまって。もともとリアル（オフライン）でやるつもりだったのですが、初めてオンラインでやりました。まずは Zoom の使い方から入って。今回は 2 回目で、オンラインとリアル（オフライン）で。あおばな館の方にリアルで距離も取りながら瞬間的に集まって、オンラインの方からは立命館大学の学生も愛知県や大阪からも参加して、オンラインとリアルとのやり取りがあり、画期的な取り組みでした。

【座長】

今後、リアルとオンラインの組み合わせは普通になっていくでしょうし、その持っている可能性を私自身やっていて感じているところです。

他に何かありますか。

【E 委員】

先ほど、新規の利用者が少ないということがありましたが、私も入りにくいという話

を聞いたことがあります。これから Zoom などオンラインでの参加者が増えていくことは良い機会だと思っています。UDCBK のセミナーについて、私も Facebook をフォローしているので、イベントがあるという情報は伝わってくるのですが、情報発信について、どのようなことをされているのかということをお尋ねします。

【事務局】

情報発信については、草津市のホームページ、UDCBK の Facebook、南草津駅前のデジタルサイネージを利用させていただいております。その他は、近隣の図書館、公共機関の方にフライヤーを置かせていただいております。UDCBK の方で単独で Facebook を持っていますが、市の方でも Facebook がありますので、今年度はそちらとの共有を図っていこうかと考えております。本日からセミナーも始まりまして、セミナーに関しましては立命館大学の教職員用の情報提供の御協力も得ており、また今年度は UDCBK の職員体制も一人増員したので、もっと外に出て活動をしていこうと思っています。その取り組みの際に、御協力いただける策を探っていこうと考えております。

【F 委員】

2点ほどあります。先ほどのホームページと Facebook のことで、予算があるので何とも難しいとも思うのですが、UDCBK の専用のホームページとか、例えばサーバー、クラウドでいいと思うのですが、そこにオンラインもいいのですが、録画を置いておいてオンデマンドで見たい人が見たいときに見られるという方式のアピールもありかなと思います。また、先ほどのリアルとオンラインのやり取りを外から録画して、それを見ってもらうことや、レンタルサーバーの予算とこともあるので考えないといけないと思います。

あと、私は大阪府に住んでいるのですが、大阪府では、お店に行くと QR コードが置いてあって、濃厚接触者の追跡ができるというシステムがあるので、例えばここでクラスターが発生するようなことがあったとしても、追跡できるような仕組みがあれば対応できるように思います。

【事務局】

ホームページですが、独自のホームページを作りたいという思いは持ち続けておりますが、なかなか予算が通りませんので難しいところがございます。

あと、記録の方ですが、先日 Zoom を使用して第1回目のセミナーを終了しまして、その録画したデータをどのように活用するか、整理して決めたいと思っておりますが、市の ICT の関係で進まないところもあります。どうにかして公開できるよう術を探っていきたいと考えております。以前から草津☆ファンプロという団体がボランティアで UDCBK の活動の記録をさせていただいて、草津☆ファンプロの YouTube では公開をさ

せていただいております。そういう連携をなかなか皆様に御紹介できていませんので、そのようなところの広報も併せてしていきたいと思います。

【F 委員】

学生さんおられますが、若い人の多くはスマホしかいじらない。わざわざパソコン開けてみるようなことしないので、スマホで見ることができる情報発信をしないと、多分伝わらない。年配の方は逆にパソコンは開けるかもしれない。パソコンもない人は紙媒体しかない。ターゲットによって使うメディア、ツールを変えないといけない。多くの人には伝わらないと思います。

【事務局】

あと、追跡の方ですが、入り口に「もしサポ滋賀」というサービスについて掲示しております。

【F 委員】

これを使ってもらえるような誘導が必要ということですね。

【事務局】

そうですね。そちらの方も努めてまいりたいと思います。

【G 委員】

利用者についてですが。オープンスペースで自習もいいとは思いますが、まちづくりという意味で本来の使い方として、学生などに対するアプローチの仕方について、利用者の多くの学生に向けて単純にセミナーなどではなく、コンテストとか、インプットだけではなくてアウトプットもしていかないといけないと思います。そのような機会を作ってほしいということと、アプローチの仕方に関しまして、**Facebook** という形ですが、正直高校生などはインスタグラムなどを使っているので、動画コンテンツということをしっかり考えたほうが良いと思います。そのようなコンテンツで草津のいいところとか、まちづくりって楽しそうだなという情報発信、こういうおしゃれなまちにしたいと思わせるような仕掛けを **YouTube** やインスタグラムなど、いろんなツールを使っていくというところを考慮した方がよいと思います。

【事務局】

今言っていたところ、私たちもチャレンジしたいと考えております。昨年度の運営懇話会で、**Line@** を使ったらどうかと御意見をいただいておりますが、市の方では難しく簡単には作れないということでした。**UDCBK** という組織が公のものであるた

めに、組織形態の性質上、出来ないこともあります。ここで御意見いただいたことについて可能か不可能かということは調べて、調べた結果を蓄積させていただいて、どのような組織形態をとっていけるかを考えていく機会にしていこうと思います。今いただいた情報というのはとても重要になってくるのではないかと考えております。

【H 委員】

資料 8 ページのイベント参加とか利用者の人数で、草津市の利用者が何人か把握できないのですが、大変少ないと思います。先ほど言われたように、今後は外に出て活動していくということであれば、ここのオープンスペースはどのような意味があるのかという意見が出るのではないかと考えています。この素晴らしい駅前のお金のかかっているような場所でやることに意義があるべきだと思います。大切なお金を使っているのに、この場所をどのように使っていこうと考えているのか伺いたいと思います。

それから、UDCBK に愛称を作るという考えはなかったのでしょうか。フェリエみたいな感じで、いい感じの愛称があればいいかなと思い、お聞きしたいです。

【事務局】

オープンスペースの活用については、今後も考えていかなければならないと考えています。この新型コロナの影響で皆様の生活の仕方が変わってきました。これが今だけなのか、これからも続くのか、ということあたりも考えていかないと、今だけの状況で判断するのは非常に難しいかなと思います。H 委員からいただいた御指摘は、以前から議会の方でも御指摘いただいておりますので、ここの予算、賃貸料と人件費についてもお聞きしていますので、そのあたりについては考えております。外に出ていく件については、すべて外で行うのではなく、中で何ができるのかということと一緒に考えていかないといけない課題と考えております。今は利用状況が少なくなっておりますが、利用者の方や委員の皆様の御意見も参考とさせていただきたいと考えています。

愛称については、UDCBK というのが年配の方には少し分からないという御意見や草津市の部署ということもよく分からないという御意見をいただいております。先日の議会でもそのような御質問をいただきましたので、外から見て草津市のパンフレットが見えるようにしたり、できることから考えながら進めていきたいと考えています。

【座長】

ここのオープンスペースの活用については状況に応じて検討していくということですが、事業のプロジェクトについては資料の 2 ページ 3 ページの通り進めております。この活動自体と活動から得られた成果が、ここの場所で提示されていくことが必要かと思っております。都市デザインでありますので、都市デザインに関わる様々なものが置かれて蓄積されていくと、皆様がイメージを持ちやすくなりますし、この場所に来て考えるきつ

かけになると思います。貸しスペースとして活用するというのではなく、アーバンデザインを考え、アイデアを出す場所としていくことが大変重要なと思っております。

【I 委員】

2つ話があります。まず、アウトプットの話で、3ページの「大学生が住むまちプロジェクト」は議論して位置付けているところがあります。大学生の活動を発表することがアーバンデザインかと言われれば、なぜ大学生のためにこの場所かとなるかもしれませんが、大学生が多くいるはずのまちであるのに、この駅前空間に大学生の存在があまり感じられないというのは、これはもったいない。大学生がやっていることを市民にアピールするとか、市民の方と一緒に何かやっていくとか、ここでアウトプットすることでまちの知り合いも増えてくるかもしれない、そういう思いがあります。そういったところでの企画とか展開とか、どのようにしたら良いかというアイデアなどあれば、御意見をいただきながら出来たらいいのではないかと思います。

もう一つ、この場所の利用法ということですが、個人的には、新しいビジネスのチャレンジの場になればいいなと思っております。新しいビジネスを始めるとなると収益が出るかなど試してみないと分からないわけですが、公共的な空間でそういうことをやってはいけないということですよ。また、市役所の社会実験ということでアーバンデザインとしての目的を位置付けて、プロポーザルを行って、チャレンジしたい人を募集するのもいいと思います。この懇話会で話題にすることがチャンスにつながっていくのではないかと思います。

【座長】

次の議題に行ってもよろしいでしょうか。

今年度の実施予定事業について、よろしく申し上げます。

4. 協議

【事務局】

それでは、資料4の実施予定事業について説明させていただきます。

(事務局から資料の説明)

【及川委員】

続いて、学習事業について御説明します。学習事業は大きく2本の柱がありまして、一つはアーバンデザインスクール、もう一つはアーバンデザインセミナーです。どのように違うかと申しますと、アーバンデザインスクールの方はアーバンデザインについて

学ぶということが大きなテーマです。一方、アーバンデザインセミナーの方は個々のトピックスに対して関心を持って、そこで考えるということです。アーバンデザインスクールの方は毎年、前後期5回ずつ計10回行っておりましたが、今年度はコロナの関係で、今のところ後期5回を考えていますが、まだテーマややり方などは決まっておられません。アーバンデザインセミナーも今年は10回ぐらいになるのではと思っております。第1回はZoomで、参加者は15人ぐらいで開催いたしました。本日の18時半からは第2回目の開催となります。セミナーの第2回から第5回はまちと交通に関連するテーマで、Zoomで行います。突然このような状況になってWithコロナという流れになっています。今まで一生懸命、人を呼び込む活動をしてきたのが一気に密度を薄く、人と人が離れてという、全国各地のUDCもそうですが、同じようなジレンマになっておりまして、テーマとして今までのような人が集まるというものでは違和感がある感じになっております。そこで、テーマを考え直す必要があるということです。新しい知恵が要求されるということです。今年はオンラインツールをメインでやっていきますが、オンラインとリアルとハイブリッドで融合してやるというのが当面のやり方だと思しますので、その際にFacebookで情報発信、相互で情報が交換できるようにテーマも考えて進めていきたいと考えております。

(事務局から資料の説明)

【座長】

それでは、質疑応答に参ります。

【J 委員】

事業について。目指すところに対する効果、KPIがあまりないので、行った結果どのような効果が出ているのか、すべてKPIで示せるわけではないですが、そのようなところを今年度の行動の中に取り入れていただけたらと思います。

【事務局】

事業プロジェクトのアウトプット、報告ですね。そのようなものをきちんとまとめて、それが知っていただく機会になりますのでやっていく必要があると思います。一つ一つ形にしていくということが必要ですし、それが今後の草津市のまちづくりや行政にどういうふうを活用されていくのかということと、行っていく必要があると考えております。事業プロジェクトは2年目で昨年度の成果もありましたが、今年度もここまで成果が出ましたということを示していく必要があると思います。

【K 委員】

UDCBK の取り組みは、南草津だけ対象なのか草津市全域を対象としているのかどちらでしょうか。

草津市全体のまち協の人たちと連携して周知するという考えはあるのでしょうか。

【座長】

これについては、草津市全域が対象になっていて、そこは明確なところですが、いろいろなところとのつながりが必要だということで、地域再生計画策定支援で山田学区では食の視点から地域をどのようにしていくのかということが進みつつあります。他の地域でも御縁があれば、ここは大学と連携していますし、産業界の皆様とも御協力いただきながらアーバンデザインに関わる新しいプロジェクトを立ち上げていくということをぜひ一つ一つ増やしていきたいなと思います。決して南草津に限定するものではなく、去年の山田学区のように草津市全体でつながりをもって進めていければと思っております。

【B 委員】

資料を見させていただくと大学の先生などの質の高いセミナーを企画していますが、今後、参加者の参加料など料金はどのように考えているのか、お聞かせください。

【事務局】

法人化の検討の中でも、そのような意見が出てきております。どのような形で進めていくのか、官と民で講座を進めていくのか、単純に参加者の方から参加料をいただくのかなどは、議論の中でございましたが今のところは考えておりません。しかし、かなり著名な講師の方に、UDC であるということで協力していただいております。市の基準に基づいて謝礼はお支払いさせていただいておりますが、UDC であるからこそ、本庁での講演会であれば考えられない金額で御登壇くださるという先生方も多くいらっしゃいます。いずれ自主運営していくということを考えていきますと、参加料というのは考えていけないといけないと思います。

【座長】

法人化という流れの話になりますが、やはり課題となるところかと思えます。

【F 委員】

セミナーのところで医療や健康というのも一つの柱となると思っていて、本学の先生で講師というのはなかなか難しいのですが、オンラインであれば、奈良県立医大の医学部とまちづくりを一緒に行っていくという接点がこれまでにありました。今年度は分からないですが、今後、医療、健康とまちづくりというテーマもいいのではないかと

思います。

【L 委員】

奈良県立医科大学と早稲田大学と協力して、まちづくりと医療を一体化して古いまち並みの中にセンターを入れておられるところや、かなり積極的なことを行っているというところで非常に参考になると思います。今回の第3回のセミナーの佐藤滋先生はまさにその火付け役の先生です。非常に参考になる御意見で、わざわざこちらにお越しただかなくても、そういう先生方に少しお願いして参加していただくということもできるのではと、かなり自信を持つことができました。

【座長】

私は立命館大学のビジネススクールの責任者ですが、医療介護経営研究センター長でもあります。医療、介護、健康については大変深く関心がありまして、私も全国にいろいろなつながりがありますので、一個人としてUDCでも企画があればと思っております。

【M 委員】

まちづくり協議会の活動は0歳児から介護に至るまで、あらゆる年代に向けて啓蒙活動を行っているのですが、この場所でいろいろな先生方のセミナーを聞かせていただいているような情報を吸収させていただいております。逆に、14のまちづくり協議会の活動をここから発信していただくと、草津市のエリア全体に伝わるのではないかと感じているのですが、発信の方法を考えていただいたらどうかと思います。

【事務局】

前の運営懇話会の時も14学区のお話しいただいていましたが、今年度は外に出ていくという体制をとらせていただくことで、何か協力できることがあるかもしれません。そのような機会を今年度はどんどん増やしていきたいと思っております。

【座長】

まちづくり協議会、それぞれのセンターで連携しながら、双方で情報を出し合いながら新しい取り組みができればいいと思います。山田学区でも実際に提案をいただいて、こんな感じでできますというような感じで進めているので、こちらからも出かけていきますが、それがアーバンデザインに絡んでいく形をとりたいと思っています。

【E 委員】

都市デザインについてはまだまだ知らないことが多いのですが、私が普段ボランティ

アで接しているのが外国人です。今、草津市に3000人くらいの外国人がいて、みなくさビジョンは、目標年次が10年後ということで、その頃には外国人はもっと増えていると思うので、多文化共生の視点も、もう少し入っていれば良いなと思います。

【事務局】

みなくさビジョンの推進懇話会をUDCで行う関係上、UDCでいただいた御意見というのも反映していくつもりでおります。都市と交通のプロジェクトの意見も反映させていただきますが、せっかくここで御意見をいただいておりますので、ここでの御意見も反映していきたいと思っておりますし、今年度は、まちづくり協働課からの多文化共生プランの方も進めていきます。やさしい日本語サロンなども参加していただいておりますが、市の方で動いている事業との連携も探りたいと思っております。

【G委員】

前から気になっていたのですが、アーバンデザインスクールとかセミナーとか、立命館大学はここ2、3年くらい同じ先生が出ているという印象があります。もっと広い視点でのまちづくりということで、せっかくいろいろな分野の学部がありますので、そこを活かさない手はないのかなと思います。何かこだわっている点はあるのか、お聞きしたいです。もっと幅広く、いろんな先生方をお呼びすることを考えていらっしゃらないのでしょうか。

【座長】

できるだけ幅広くというのは考えているのですが、やはりここはアーバンデザインに関わるスクール、セミナーということを考えておりますので、市民にいろんな関心を広めていくということではないのかなと。去年、食とまちづくりの企画をしましたので、そういうことはいろいろな形でできるのかなと思います。各大学様々な分野の先生方いらっしゃいます。先ほども医療という御意見が出ましたが、様々な世代の市民が都市のデザインに関わるということで、新しい視点で行うということは、ぜひやっていきたいと思っております。大変貴重な御意見だと思っております。

【C委員】

みなくさビジョンの4ページ。市民の意見、パブコメの形で取られるということですが、なかなかパブコメは実際には関係者の意見になりがちなところがあります。全国的には、意見を待っているだけではなくてワークショップを開いたりして積極的にやろうという動きがあります。先ほどオープンスペースの使い方について意見がありましたが、UDCBKの中でスキルを蓄積して、より積極的に場所も活用しながら使っていくことができれば、しっかりと意義を説明することができるのかと思いました。

【事務局】

今いただきました御意見については私も同感で、パブリックコメントだけではなかなか意見はいただけません。今、市の方でも随分変わらして、この時期に説明会をして皆様からの御意見をいただくということもございます。ワークショップの方もコロナで随分遅れておりまして、かなり急がないと策定できない状況ということになっております。可能な限りそのようなことも取り入れていきたいと思っております。

【I 委員】

今の御意見はとても重要な御指摘だと思っています。8ページのスケジュール表を見ていただくと、ワークショップのところ（UDCBK）となっています。これはシナリオプランニングでコーディネートされたやり方ですが、そこに市民と学生を公募で参加していただくワークショップということで、これをどうにか秋ぐらいの間に反映していく方向でお願いします。今のお話はそういうセットプレーだけではなくて、もっとランダムにいろんな意見を拾えるという意味でワークショップがあってもいいのではないかと御意見ではないかと思いました。

4. 閉会

【座長】

それでは、お時間となりましたのでここで終了とさせていただきますと思います。

【事務局】

本日は大変貴重な御意見も頂戴いただきありがとうございました。運営懇話会での御意見ですが、だんだんと変わってきているのではないかなと思っております。先ほどJ委員からいただきましたように、今までの実績を報告するだけではなく、今年度は成果の提示もできるようにしていきたいと思っております。懇話会だけではなく、日常感じることがございましたら、お電話などでもお聞かせいただけたら大変助かります。本日いただきました御意見はあらためてUDCBKの今後の事業展開に反映させていただきたいと考えております。引き続きお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。